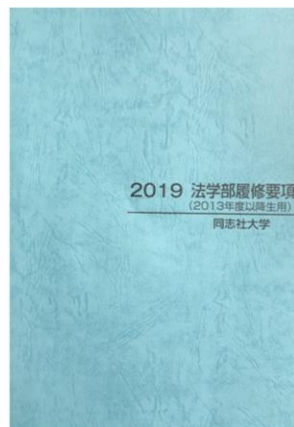




2020年度  
新入生学習指導

手元に・・・

「法学部履修要項」  
(水色の本)



これから新入生の学習指導を始めます。  
お手元とに「2020法学部履修要項」をお出してください。

## 今日のおはなし

1. 「大学での学び」のために
2. 「自分らしい学び」のために
3. 開講に備えて

大学では、様々な点で高校までと異なるところがあります。そこで、第1に、「大学での学び」の特徴をお話します。

また、大学では学生がみな同じことを学ぶわけではありません。そこで、第2に、「自分らしい学び」についてお話します。

さらに、第3に、開講にどう備えるべきかについてお話します。

## 1. 「大学での学び」のために

### 高校までの学び

生徒の希望に関係なく、  
学ぶべきことを、学ぶ  
べきときに

=最低限必要なことが  
学べる

**学校給食**

→履修要項 10ページ参照

### 大学での学び

自分が学びたいことを、  
学びたいとき、学びた  
いだけ

=自分で選ばないと、  
何も学べない

**レストラン等での食事**

履修要項の10頁をご覧ください。

高校までは、原則として生徒はみな決められた同じことを受動的に勉強するというスタイルでしたが、大学では、原則として自由に、自分が学びたいことを、学びたいときに、学びたいだけ能動的に勉強・研究するというスタイルに変わります。この点が、「大学での学び」の最大の特徴です。

## (1) 「大学での学び」の特徴

- 注文しなければ、何も食べることはできません。  
まず、メニュー（シラバス）をよく読んで、  
注文（登録）することから始まります。
- 総合大学は、メニューが豊富です。  
自分が選んだ店（学部）だけではなく、  
系列店（他学部等）のメニューも注文（登録）して  
食べる（履修する）ことができます。

何を、いつ、どれだけ学ぶかを定めるためには、何が、いつ、どれだけ提供されているかを知らなければなりません。

履修要項の72頁以下に、「開講科目一覧」が記載されています。科目名、担当者、開講学期、単位、配当年次、開講校地、登録方法がわかります。

また、ホームページではシラバスが記載されており、当該科目の内容等がわかるようになっています。

さらに、法学部では、専門分野のみに偏ることのない広い視野を持った人材の育成を目指していますので、「副専攻制度」を設けて、他学部の開講科目を履修することもできるようになっています。詳しくは、履修要項40頁「VII. 副専攻制度について」を参照してください。

これを理解して、登録することが必要です。

登録については、「2020法学部科目登録の手引き【登録要領】」を熟読していただき、別に行われる事務室からの登録に関する学習指導をお聞きください。

## (2) 必要最低限の「学び」の保障

- 栄養が不足しないため、卒業までに必要な最低限の「学び」の量が決まっています。

法学部の卒業に必要な年数は、**原則として4年**。

法学部の卒業に必要な単位は**128**単位。

週1回（90分）の授業は2単位。

週2回（180分）の授業は4単位。

⇒語学など週1回で1単位の科目もある。

原則として自由とはいえ、4年間で「最低限度、卒業するために必要な取得単位数」は128単位と決められています。

1単位とは、毎週1時間15週の授業＋自習時間で45時間の履修時間をいいます。したがって、週1回90分の授業は2単位、週2回180分の授業は4単位となります。授業だけではなく、授業時間の2倍の自習時間を含んでいることに注意してください。大学では、このように自学自習が前提となっているのです。

### (3) 極端な偏りをなくすために

- 最低限必要な「量」(単位数)を定めている科目のグループがあります。

基礎科目・展開科目・外国語科目・一般教養科目  
⇒卒業には「○単位以上」必要

- 1学期や1年に登録できる「量」(単位数)の上限や下限が決まっています。

1年次の	年間最高登録単位数	40単位
	学期最高登録単位数	30単位
	学期最低登録単位数	2単位

卒業に必要な単位数の128は、どのような科目でもよいというものではなく、一定の制約があります。履修要項の18頁「履修体系」をご覧ください。

法学部は、1類で法律学を学んでいくための学修方法などを身につけ、2類で法律学全体の基本的事項を体系的に学び、3類でそれぞれの興味に応じた専門的な科目を履修するというステップアップ方式のカリキュラムになってきます。

また、1年に登録できる単位数の上限が定められており、11年次は40単位、学期最高登録単位は30単位、制定登録単位は2単位です(履修要項19頁参照)。

#### (4) 「何を選べばよいかわからない！」 という人のために

- 1年生～2年生春までは、登録必修のメニュー（**入門科目・基礎科目**）が用意されています。
- 1年生秋からの「展開科目」には、定食（**履修モデル**）が用意されています。  
将来の進路や関心に応じて、  
「法曹」「公務員」「企業法務」「基礎法学」

履修要項21頁をご覧ください。

入門科目(1類)では、法律学科の新入生全員に登録していただき、今後法律学を学んでいくための導入教育をします。ここで、法律学の勉強の仕方などの基本的スキルを修得する授業を行います。

基礎科目は(2類)では、2年次までに法律学科生全員にすべての科目に登録していただき、各法領域ごとの基礎的な知識を身につけるための授業を行います。

展開科目(3類)は、各法領域ごとの最新の学説・判例・立法等、より高度で専門的な知識習得を目指した科目です。

また、法学部では、学生の興味・関心、の希望進路に応じて専門知識や素養を身につけることができるように、3類科目について「法曹」、「公務員」、「企業法務」、「基礎法学」の4つの履修モデルを提示しています。詳しくは、履修要項29頁以下の「VI. 法律学科履修モデルについて」を参照して、何を勉強しようか悩んだ時の参考にしてください。



## 2 「自分らしい学び」のために

- 海外留学がしたい
  - 法学部の派遣留学プログラム
  - ～次世代リーダー養成プログラム
- より高度な専門性を身につけたい
  - 大学院への進学
  - ～法学研究科と司法研究科
  - 法曹養成プログラム

地球規模で発生する諸問題に対して多面的に取り組み、解決に貢献できる人材を育てることを目指して、法学部生・法学研究科において、ダブルディグリープログラムと単位互換プログラムという海外留学プログラムが用意されています(履修要項37頁「法学部生のための海外留学プログラム」参照)。

また、より高度な専門性を身につけたい人のために、大学院に進学することもできます。大学院には、高度な専門的素養を備えた人材を育てるための多様なキャリア設計に対応する充実した教育体制を整えた法学研究科と、法曹養成を目的とする司法研究科があります。

なお、今年度から「法曹養成プログラム」がスタートしますが、これについては別ファイルで説明します。

## (1) 法学部の派遣留学プログラム ～次世代リーダー養成プログラム

### ダブルディグリープログラム

アリゾナ大学（アメリカ） 派遣期間 2年 3年次生以上  
**ダブルディグリー** 同志社大学 学士（法学）  
アリゾナ大学 Juris Doctor Degree

### 単位互換プログラム

派遣期間 1学期または1年

モントリオール大学（カナダ） 3年次生以上  
チューリヒ大学（スイス） 3年次生以上  
東呉大学（台湾） 2年次生以上  
トゥールーズ第1大学（フランス） 2年次生以上  
シエナ大学（イタリア） 2年次生以上

くわしくは、履修要項37頁、12月開催予定の留学プログラム説明会で。  
「海外留学プログラム」の案内チラシ（教務センターで配布）

履修要項37頁をご覧ください。

ダブルディグリープログラムとは、同志社大学と協定大学にそれぞれ一定期間修学のうえ、履修単位を始めとする全要件を満たすと、双方の大学からそれぞれ学位が授与されるプログラムです。

単位互換プログラムとは、協定大学科目履修し、修得単位を同志社大学の卒業・終了単位の一部として認定するプログラムです。

くわしくは、次世代リーダー養成プログラムのホームページをご覧ください。

## 留学準備／留学の代わりに

外国語で授業が行われる科目 履修要項135ページ  
AKP科目、スタンフォード大学科目  
KCLS科目、チュービンゲン大学科目 他

語学テスト対策講座 TOEFL ITP®テスト対策講座

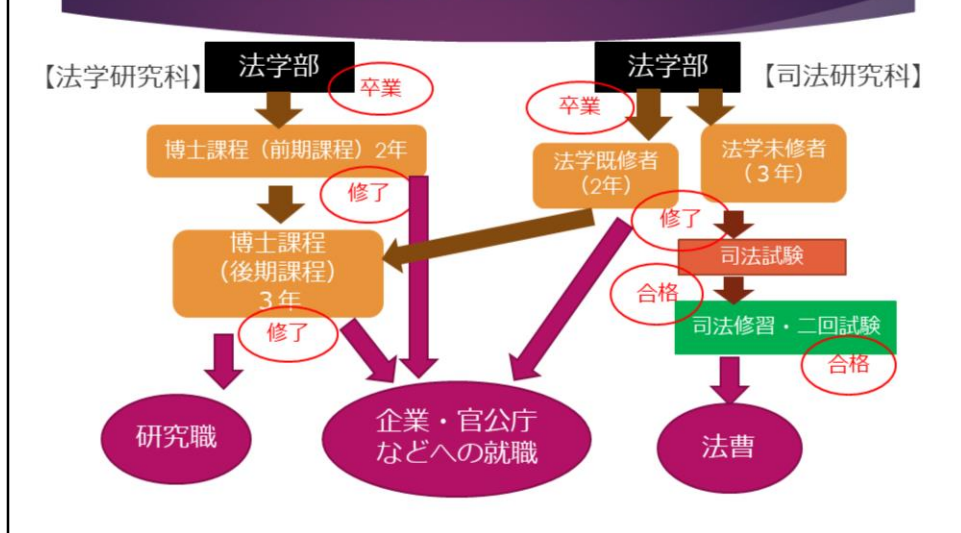
国際大会出場を目指す特殊講義  
「国際人道法模擬裁判」「国際物品売買と  
国際商事仲裁 (Vis Moot)」「法的交渉論」

留学を考えている学生には、英語で行われる科目を履修することを推奨します。外国語教育科目以外の、英語で行われる科目については、履修要項148頁の「外国語による科目の開講について」を参照してください。

TOEFL ITPテストを受験しようとする人のために、テスト対策講座を実施しています。くわしくは、年間対策講座スケジュールでご確認いただき、自身のスケジュールやレベルに合う講座を選択するようにしてください。

国際大会出場を目指す特殊講義については、各科目のシラバスを参照してください。

## (2) 大学院への進学 ～法学研究科と司法研究科



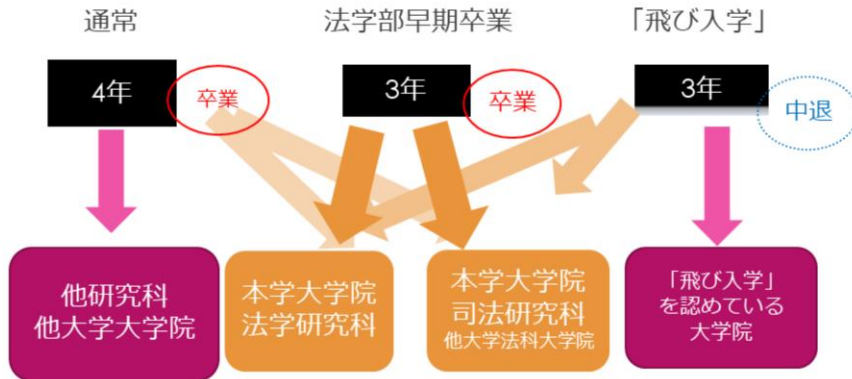
大学院には、研究者や高度専門知識を備えた専門家を養成することを旨とする法学研究科と、法曹養成を目指す司法研究科があります。

なお、今年度から「法曹養成プログラム」がスタートしますので、司法研究科への進学を考えている人は、履修要項33頁「法曹養成プログラム(法曹コース)」を参照してください。

## 法学部早期卒業・飛び入学

### 3年次修了時から大学院へ入学する方法

通常の在学期間を1年短縮し、大学院へ進学できる制度



通常は、学部を4年で卒業後大学院に進学するのですが、同志社大学法学研究科では、学部成績などが優秀な者に対しては、筆記試験を免除する「学部在学生特別選抜入学試験制度」を設けています。また、学部3年次終了時点からの大学院進学(飛び入学)制度も導入しています。

さらに、本学大学院法学研究科および司法研究科への進学を希望する者で、成績など、一定の要件を満たしている場合には、3年次終了時に卒業が認められる早期卒業制度もあります。

## 法学部早期卒業と 法学研究科の特別入学制度

### 法学部早期卒業制度

2年終了時に、早期卒業希望登録

(取得単位数80単位以上・GPA2.8以上)

3年終了時に、卒業必要単位(128単位)・GPA3.0以上

法学研究科または司法研究科入試への合格

### 法学研究科の「学部在学学生特別選抜入学試験」

一般入試は語学・専門科目の筆記試験+口述試験

本学法学部からの進学なら、GPA2.5以上で筆記試験免除

履修要項162頁「法学部早期卒業制度」をご覧ください。

法学部では、本学大学院法学研究科や司法研究科と連携し、5年間、一貫した方針および同一環境のもので学び、高度な専門知識を身につけることができる道を用意しています。

早期卒業を考えている学生は、2年次終了時に、早期卒業希望登録をしてもらいます。登録するには、2年次終了時において、80単位以上を修得し、かつ、当該修得単位数に対するGPAが2.8以上でなければなりません。

また、法曹養成プログラム修了者を対象とする早期卒業もあります。

そのうえで、3年次終了時において、卒業に必要な単位数をすべて修得し、GPAが3.0以上であり、かつ、本学法学研究科または司法研究科入学試験(後期日程)を受験し、合格した場合に早期卒業が認められます。

法学研究科には、一般入試(語学+専門科目の筆記試験+口述試験)のほかに、「学部在学学生特別入学試験」があり、法学部からの進学であれば、GPA2.5以上で筆記試験が免除されます。

### 3 開講に備えて

入学前にプレイスメントテストを受験できなかった人は

**4月1日(水)～3日(金)** に実施。

登録要領81頁(パソコンによる受験)。

何を履修すればよいのか迷ったら

**履修相談** 4月3日～6日  
10時～16時

外国語関係については、「2020法学部科目登録の手引き【登録要領】」77頁「全学共通教養教育科目(外国語関係)」を参照してください。

開講までに読んでおくとよい本

道垣内弘人

「プレップ  
法学を学ぶ前に」  
(弘文堂)



そして・・・

法職講座 [twitter:@houshoku-2020](https://twitter.com/houshoku-2020)





# 2020年度 新入生学習指導 おわり

楽しく、充実した大学生活を送ってください。  
何か困り事があれば、  
教務センター法学部（良心館1階）の窓口へ。